

# Bloch 球と量子状態について

松本侑真

2023 年 9 月 2 日

## 概要

1 量子ビットの状態を Bloch 球上の点として表現する方法について、基礎事項をまとめる。

## 目次

1	量子状態について	2
1.1	1 量子ビット系 . . . . .	2
2	Bloch 球表現	3
2.1	立体射影 . . . . .	3
2.2	状態ベクトルと立体射影 . . . . .	3
3	Bloch 球上の回転操作	3
4	Hilbert-Schmidt 表現	3
4.1	量子ゲート操作の表現行列 . . . . .	3

## 1 量子状態について

- $n$  量子ビットの状態は  $(\mathbb{C}^2)^{\otimes n}$  の元で表される。ゼロベクトル  $(|0\rangle \otimes |0\rangle \cdots \otimes |0\rangle)$  ではない) は、どのような状態も表さない。
- $\alpha \in \mathbb{C} \setminus \{0\}$  とする。このとき、

$$(\mathbb{C}^2)^{\otimes n} \setminus \{0\} \ni |x\rangle \sim \alpha |x\rangle \in (\mathbb{C}^2)^{\otimes n} \setminus \{0\} \quad (1.1)$$

の同値類は同一状態を表す。したがって、量子状態  $|\psi\rangle$  のノルムは 1 と約束する：

$$|\psi\rangle \in (\mathbb{C}^2)^{\otimes n} \setminus \{0\} \wedge \langle \psi | \psi \rangle = 1. \quad (1.2)$$

- $|x\rangle, |y\rangle$  を量子状態とする。このとき、 $\alpha, \beta \in \mathbb{C}$  として、

$$\alpha |x\rangle + \beta |y\rangle \quad (|\alpha|^2 + |\beta|^2 \neq 0) \quad (1.3)$$

は量子状態である。

### 1.1 1 量子ビット系

1qubit の量子状態  $\mathbb{C}^2 \setminus \{0\}$  の元は、 $\alpha, \beta \in \mathbb{C}$  を用いて

$$\alpha |0\rangle + \beta |1\rangle \quad (|\alpha|^2 + |\beta|^2 = 1, \langle i | j \rangle = \delta_{ij} \ (i, j = 0, 1)) \quad (1.4)$$

と表す。 $a, b \geq 0, 0 \leq t - s < 2\pi$  を用いて

$$\alpha = ae^{is}, \beta = be^{it} \quad (1.5)$$

とおくと、

$$a = \cos \frac{\theta}{2}, b = \sin \frac{\theta}{2} \quad (0 \leq \theta \leq \pi) \quad (1.6)$$

と表すことができる。したがって、

$$\alpha |0\rangle + \beta |1\rangle = e^{is} \left( \cos \frac{\theta}{2} |0\rangle + e^{i(t-s)} \sin \frac{\theta}{2} |1\rangle \right) = \cos \frac{\theta}{2} |0\rangle + e^{i\varphi} \sin \frac{\theta}{2} |1\rangle \quad (0 \leq \varphi < 2\pi) \quad (1.7)$$

と、 $\theta, \varphi$  を用いて記述することができる。これを Bloch 球表現と呼ぶ。 $\theta, \varphi$  をこのように設定することで、1qubit の量子状態と Bloch 球上の点を 1 対 1 に対応させることができる。

## 2 Bloch 球表現

$0 \leq \theta \leq \pi, 0 \leq \varphi < 2\pi$  として、

$$\cos \frac{\theta}{2} |0\rangle + e^{i\varphi} \sin \frac{\theta}{2} |1\rangle \mapsto (\sin \theta \cos \varphi, \sin \theta \sin \varphi, \cos \theta) \quad (2.1)$$

という写像は、1qubit の状態と  $\mathbb{R}^3$  の単位球面 (Bloch 球) との 1 対 1 対応を与える。例えば、Bloch 球の北極 ( $\theta = 0$ ) は  $|0\rangle$  の量子状態、南極 ( $\theta = \pi$ ) は  $|1\rangle$  の量子状態に対応している。この表現を用いることで、量子ゲート (ユニタリ演算子) の作用を Bloch 球上の回転操作と同一視することができる。

### 2.1 立体射影

1qubit の量子状態  $|\psi\rangle$  から Bloch 球表現への写像の具体形を導出する。

$$|\psi\rangle = \cos \frac{\theta}{2} |0\rangle + e^{i\varphi} \sin \frac{\theta}{2} |1\rangle \quad (2.2)$$

の  $|0\rangle$  と  $|1\rangle$  の係数比

$$\alpha = \frac{e^{i\varphi} \sin \frac{\theta}{2}}{\cos \frac{\theta}{2}} = e^{i\varphi} \tan \frac{\theta}{2} \quad (2.3)$$

は、 $|\psi\rangle$  と 1 対 1 に対応する。 $0 \leq \theta \leq \pi$  より、 $\alpha$  は任意の複素数もしくは  $\infty$  となる ( $\alpha \in \mathbb{C} \cup \{\infty\}$ )。

### 2.2 状態ベクトルと立体射影

## 3 Bloch 球上の回転操作

## 4 Hilbert-Schmidt 表現

### 4.1 量子ゲート操作の表現行列